Title	東日本大震災下におけるキリスト者の連携(第二回東日本大震災国際神学シンポジウム : 全体会「教派教団を越えた働きについて」)
Author(s)	川上, 直哉
Citation	聖学院大学総合研究所紀要, No.56, 2013.10 : 193-206
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=4936
Rights	

SERVE

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

【第二回東日本大震災国際神学シンポジウム】

全体会「教派教団を越えた働きについて」

東日本大震災下におけるキリスト者の連携

川上直哉

本稿は、二〇一三年二月一五日に開催された第二回「東日本大震災国際神学シンポジウム」全体会における講演要旨である。当日、筆者は、ビデオを用いて標題の内容を紹介した。そのビデオは、追加版および英文字幕・韓国語ナレーションを付して、http://p.tl/V-hP にて、視聴が可能である。以下、その内容を文字として示すこととする。

1. はじめに

宮城県およびその中心である仙台圏には、一九世紀以来の仏教とキリスト教の連携があった。また、二〇世紀後半にはカトリック・プロテスタント・無教会などが共に礼拝を行う等、教会間の連携が育まれてきた。

一九八九年に「仙台キリスト教連合」は結成され、また、二〇一一年にその被災支援部門である「東北ヘルプ」が生み出された。前者は信教の自由を巡る危機感から、後者は未曽有の災害への対応のために、それぞれ作られたものである。

東北の主な教会ネットワーク

仙台キリスト教連合は、毎年「新年礼拝・一致祈祷会」（一月）と「平和を求めるキリスト者合同祈祷会」（八月）を開催してきた（主な活動は付表「仙台キリスト教連合年表」（二〇一頁）のとおり）。そして、二〇一一年三月一八日、仙台キリスト教連合は「被災支援ネットワーク」を設立し、その略称は「東北ヘルプ」と名付けられた。私たちは、この働きの中で、「教会にできることがある」ことを発見し、感謝した。

以下に、東北ヘルプの支援事業について、説明する。

2．経緯と理念

（1）経緯

二〇一一年三月一八日、仙台キリスト教連合被災支援ネットワーク（東北ヘルプ）は、任意団体として活動を開始した。その期限は当初一カ月とされたが、三カ月へと延長した。

二〇一一年七月、海外からの資金の受け入れのために、東北ヘルプ事務局を「財団法人東北ディアコニア」へと改組し、三年間の活動を目指す。

二〇一三年一月、三年後以降の活動継続を目指して、「ＮＰＯ法人　被災支援ネットワーク・東北ヘルプ」を立ち上げる。

（2）理念――「地の塩・世の光」として、支援者を支援する。

a. 地の塩＝地域を支援する

b. 世の光＝情報を発信し整理する

3. 東北ヘルプが関係した諸会議とその成果

a. 二〇一二年八月にニュージーランドのクライストチャーチおよびオークランドの諸教会を訪問し、「世界教会協議会（ＷＣＣ）釜山大会」で協働のブース展示を行うことを決定した。

b. 二〇一二年九月に仙台市で「日韓キリスト者信仰回復聖会」を行い、韓国基督教協議会（ＮＣＣＫ）と福島県キリスト教連絡会の責任者をお招きした。特に金鐘勳師によって「これから福島を中心に未曾有の悲しい出来事が起こる、その場に立ちつくし、そこに行われる神の業を見る証人となること」が参加するすべてのものの責務として確認された。

c. 二〇一二年九月に仙台市で行われた諸宗教者の共同シンポジウム「原発と憲法九条」の現地実行委員となった。核発電所（原子力発電所）はいのちを脅かし、「恐怖と欠乏」をもたらし、「平和のうちに生存する権利」（日本国憲法前文参照）を脅かすものであることを確認した。

d. 二〇一二年一〇月に福島県須賀川市で行われた証言集会「福島の震災を語る会」におけるコーディネーターとして、証言の重要性とその神学的解釈の不可欠であることを提言した。この集会を下地として、『フクシマのあの日・あの時を語る』（いのちのことば社、二〇一二年）が出版された。

e. 二〇一二年一一月にインドネシアで行われたアジアキリスト教会協議会主催の「環境・経済・アカウンタビリティに関する協議会」に参加した。核発電所（原子力発電所）を巡る問題は環境と経済の問題が相克する焦点を持っており、この問題は周縁化の問題を解決しなければならない難問であって、その解決の鍵は、地域と密着し世界と直結している教会にあることを発表した。

f. 二〇一二年一二月に福島県会津で行われた諸宗教者共同の「原子力に関する宗教者国際会議」の現地実行委員会を編成した。現地の人々の声に応答する国際会議でなければならないことを主張し、「核発電所（原子力発電所）と核兵器とはその本質において同一である」ことを会議全体として確認した。またとりわけ張允載師の発表に対して応答し、放射能禍に悩む人々に十字架のキリストを見出した後に「如何に祈るのか」という疑問が残ることを指摘した。

g. 二〇一三年二月に一週間の予定で行われた「日韓教会交流及び宣教協力増進ツアー」の実行委員となった。このツアーによって、被災地の牧師一四名が韓国の諸教会で奉仕し、被災地の現状報告を行いつつ、世界教会協議会（WCC）釜山大会へ向けた韓国教会との連携を深めた。

h. 二〇一三年三月に東京で行われた「東日本大震災国際神学シンポジウム」に協賛した。分科会において、弔いについての報告を行い、また、シンポジウムの主題講演者であるR・マオ師への応答を行った。後者においては、震災以来神義論を展開してきた中澤啓介師への応答、そしてフクシマ以後の神学を模索する趙允載師との対話を加え、神義論の課題に「如何に祈るのか」という課題から取り出される視角を示し「十字架のキリスト」に加えて「復活

のイエス」を語る使命を教会が帯びていることを主張した。

i. 二〇一三年五月に福島市で行われた諸宗教者共同の「福島宗教者円卓会議」の開催に現地実行委員とし協力した。公益法人 世界宗教者平和会議日本委員会のメンバーと福島に関わる諸宗教者および避難当事者の声を集めつつ、核発電所（原子力発電所）に対する諸宗教から発表された声明文を集約し検討する必要を訴えた。

j. 二〇一三年六月にソウルで「世界教会協議会（WCC）釜山大会」への準備会合を行い、「大都市での被曝」は世界で初めて福島が体験している事柄であり、核発電所（原子力発電所）事故のみならず核戦争に不安を覚えるすべての人々にとって、福島で起こりつつある出来事の証言は貴重な価値を持っていること、とりわけ、その神学的・信仰的な証しを二一世紀の世界が必要としていることが、確認された。

k. 二〇一三年八月二九日から一週間、ソウルで「世界教会協議会（WCC）釜山大会」への準備会合を行い、大会内に開催するワークショップについて、韓国諸教会との調整を行った。

4. これまでの支援事業（二〇一三年二月現在）

（1）スピリチュアル・ケア：受益者　二七万二九〇〇人

「心の相談室（仏教者・神道者・キリスト者が参加数するコンソーシアム）」を医療者・学者と共に設立し、以下の活動を行った。「出張傾聴喫茶 Café de Monk」「電話相談」「ラジオ番組 Café de Monk 制作」「臨床宗教師養成のための寄附講座開設」

（2）外国人被災者支援プロジェクト：受益者　八万五一七〇人

「外国人被災者支援センター」を地元ＮＰＯ法人並びに「外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会」と共に設立し、以下の活動を行った「現地状況調査活動」「調査報告のためのシンポジウム」「原子力発電所事故に伴う東京電力への賠償請求支援」

（3）食品放射能計測プロジェクト：受益者　七九二人

福島県内の諸教会ネットワークと共に「食品放射能計測所」を設立した。

（4）宮城県南三陸クリスチャンセンター支援事業：受益者　三〇六三人

センターを中心に、南三陸町全域にチャプレン（臨床宗教師）を派遣して共同体再構築の支援を行った。

（5）ハートニット・プロジェクト：受益者　約一〇〇人

編み物、および編み物の講習（ニットカフェ）を通して被災者の心のケアを行い、完成した作品を販売して現金収入を被災者に届ける。売上総額は、現在二〇〇〇万円以上。

（6）その他支援プロジェクト

a．仙台市内での支援事業

「若松会支援事業」「相田みつを美術館長講演会」「廉価な弁当支援」「お正月弁当支援」「教育事業」「内職支援」「生け花支援」「大工道具配付」「マッサージ・カウンセリング事業」「お茶会」「新垣勉コンサート」「森祐理さん慰問コン

サートと玄米のおかゆの炊き出し」「のみの市」「実務者会議」「避難所バイオリンコンサート」「避難所集会室へのパソコン提供事業」「サンピアフェスティバル」「仮設住宅自治会支援」「七郷中央公園仮設住宅自治会　支援事業」「仙台ＹＷＣＡこころの杜　温泉ツアー」「ＮＰＯ法人宮城歴史資料保全ネットワーク支援」「卸町五丁目仮設住宅自治会支援　コーヒー焙煎喫茶」「記念撮影プロジェクト」「夏期キャンプ」

b．その他地域への支援事業

「餅つき大会」「ライフワークサポート・響　支援事業」「漁師用ライフジャケット物資支援」「ボランティアスタッフ研修会」「漁業復興のためのファンドレージング」「赤い羽根中央募金会からのファンドレージング」「岩手教会ネットワーク・温泉プロジェクト」「石巻エアリア　キリスト教系ボランティア団体活動報告＆情報交換会」「大船渡宮田仮設住宅自治体支援」「どんぶく支援」「聴き酒プロジェクト」「やまもと復興まつり支援」「第一回東日本大震災復興支援リトルリーグ野球大会」「縁台納入」「湯たんぽ支援プロジェクト」――ＮＰＯ法人シンフォニーより湯たんぽの提供があり、仮設住宅への配布を行った。「写真洗浄プロジェクト」「石巻仮設住宅支援」「東松島市内仮設住宅への支援事業」「漁業者支援」「コミュニティ再生イベント」「ファックス設置」「浪江ピースの会支援」「やまちゃんサービス支援」「相馬・南相馬仮設支援」

5．これからの事業

（1）食品放射能計測所運営事業

支援センターとして、食品放射能計測所を活用する。

（2）短期保養事業

放射能計測所等を核として、地域の各世帯と連携を取る。

（3）「福島県避難者支援コールセンター」支援事業

福島の被災者と向き合う責任者と連携を取り、臨床宗教師（教会等）と連携して心の支援を行う。

（4）「姉妹教会」事業

福島の心の支援を担う臨床宗教師（教会等）を、遠隔地の教会等が支援する。

（5）「ハートニット」事業

岩手・宮城の津波被災者を「ニット」制作で支援する。

（6）全国・全世界への発信

一一月のＷＣＣ総会等の国際会議へ、上記の事業を通じて得られた情報を繋げ、世界に発信する。

【付表】

仙台キリスト教連合　年表

1964年	各教派連合の「市民クリスマス」開催。
1973年	「元旦礼拝」と「8月15日平和のための早天祈祷会」を，勾当台公園やレジャーセンターで開催。
1980年代	日本基督教団東北教区仙塩地区牧師会（世話役：ホサナ教会牧師河本隆夫／1982年より仙台北教会牧師管隆志）に日本聖公会・ルーテル各派・バプテスト各派・カトリックからの聖職者が参加し,「新年合同礼拝」「新年一致祈祷会」「8月15日の平和を求めるキリスト者合同祈祷会」を開催し続ける。なお,「8・15祈祷会」は，1982年から仙台キリスト教連合・核兵器廃絶と平和を願うキリスト者の会・カトリック正義と平和仙台協議会の三者主催となる。
1988年	「新年合同礼拝」「新年一致祈祷会」「8・15祈祷会」を開催（以下同じのため，省略。）
	7月7日，牧師会の代表であった日本基督教団仙台北教会牧師菅隆志の召天に伴い，カトリック仙台元寺小路教会で連合委員会開催。代表として，日本福音ルーテル鶴ヶ谷教教会牧師杉山昭男を選出。会計として，カトリック仙台元寺小路教会員 土井省吾を選出。「仙台市の超教派の教会の連絡」と「共催でした方が良いとする様々の行事」のために「毎年4～5回の委員会を中心に実施する」こととなる。
	12月11日，昭和天皇病床下での声明書を出す。
1989年	5月，イズミティ21／仙台市民会館小ホールでの賀川豊彦生誕百年記念映画「死線を超えて」上映に協力。
	5月11日，NCCJと共に「アジア祈祷日仙台」として，日本基督教団仙台ホサナ教会にてフィリピンのノエル・リラルバ氏の講演会開催。
	7月1日，仙台キリスト教諸教会住所録を作成。
	10月19日～22日,エルパーク仙台にて,日本聖書協会と共に「仙台聖書展」を開催。1389名の参加者を得，約150万円の催事となった。
1990年	4月7～8日，NCC東ドイツと共に東ドイツ教会代表Mr. Maunfred Preusse/Mrs. Gabriele Jengeの講演会を，日本基督教団仙台ホサナ教会にて開催。

1990年	5月7～13日,旭ヶ丘青年文化センターで開催された「心に刻むアウシュヴィッツ展」に協力。
	6月10～24日，キリスト受難劇鑑賞とエジプト・イスラエル聖地観光旅行を実施。
	8月12日,「大嘗祭に公的性格を持たせ，公金を使用することに反対する声明文」を発表。
	9月14～15日，日基教団青葉荘教会で開催された「朝祷会仙台ブロック大会」に協力。
	10月4～6日，NCCJと共に仙台茂庭荘を中心に開催された「第七回日韓キリスト教協議会」に協力。
	このころから,「2・11信教，思想，報道の自由を守る宮城県民集会」に協力する。
	11月18日，旭ヶ丘市民センターで開催された「大嘗祭への公金支出に反対する宮城キリスト者の会」の集会に協力。
1991年	6月11日,仙台キリスト教連合･核兵器廃絶と平和を願うキリスト者の会･カトリック正義と平和仙台協議会の三者主催で開催してきた「8・15平和祈祷日」集会を，他の二者を含めた仙台キリスト教連合主催として開催することとする。また，連合委員会委員選出について，2教会以上の教派は教派ごとに委員を選出，1教会の教派は参加意志のある方に，またYMCAやYWCAなど各キリスト教関係団体代表者にも入っていただき，大きな連合体とする。ただし，参加の是非は全く自由。
	12月25日,イズミティ21で福音派教会各派が中心になって開催された「世の光・市民クリスマス」に協力（1994年まで継続)。
1992年	「朝祷会」「実践神学読書会」「バルトを読む会」「英語礼拝」「仙台YMCA国際青年クリスマス」「靖国問題懇談会」等，参加者それぞれの活動に協力する。
1993年	6月7日，委員会への出席数が減少。委員選出と委員会の持ち方についての議論が始まる。また，外部より依頼のあった催事の開催を見送る。
	11月16日，代表の任期を2年，二期4年までと定め，交代は3月に決定することとした。委員会の名称を「世話人会」と定めた。その構成メンバーは以下の通りとした。

1993年	**カトリック教会より３名** **日本基督教団より２名** **日本聖公会より１名** **日本福音ルーテル教団より１名** **日本ルーテル同朋教団より１名** **日本基督改革派教会より１名** **日本バプテスト連盟より１名** **日本パプテスト同盟より１名** **日本基督教会より１名** **日本イエスキリスト教会より１名** **救世軍より１名** **在日大韓基督教会より１名** **保守バプテスト同盟より１名** **フリー・メソジストより１名** **ハリストス正教会より１名** **仙台YMCAより１名** **仙台YWCAより１名** **仙台YBU文化センターより１名** **実践神学研究会より１名** **仙台朝祷会より１名** **核兵器廃絶キリスト者の会より１名**
1994年	3月15日，代表を日本基督教会 仙台黒松教会牧師上山修平に交代した。会計担当者は継続とした。また，フリーメソジスト教会より連合脱退の申し出があった。
	6月14日，外部から開催を依頼された二つの催事の開催断念を決定。
	11月28日，NCCより「中国・愛徳基金会総幹事を迎えての集会」開催依頼がある。12月に緊急の会議招集を呼びかけ，1995年2月に開催。
1995年	3月17日，代表に上山修平が再任，会計に仙台朝祷会 斉藤潔が選出。
1996年	11月5日,「世界食糧デー仙台大会」へ,毎年5万円を献金することを決定。世話人を26名と確認。
1997年	6月,「エホバの証人について考える会」を開催。
	「8・15平和を求める合同祈祷集会」の献金を，NCCを通して北朝鮮基金のために奉げる。

1997年	9月4日，「8・15平和を求める合同祈祷会」での講演内容について，穏当に過ぎるとの批判があり，講師による再反論の文書「現代のアレオパゴス」が発表され，「私は，現在のまま，すなわち，教会一致を第一番の目的とすること，そして祈りを中心として，必要ならば一致のための研修もしくは対話集会のようなものをするとよい。そして実際行動の面では，必要に応じて後援または協力をするのは良いが，それは各自の信仰と自主的判断に任す，ということでよいのではなかろうか」という提言がなされる。
	9月12日，「仙台キリスト教連合」の性格付けについて以下の通り確認する。 **1．この会は，「キリスト教諸教会・諸団体の有志によって集い，世話人会で検討・承認された内容の集会を行う有志団体」とする。** **2．公同の教会として最大公約数的な集まりとし，厳格な規定を設けない。** **3．集会について，基本的には「新年礼拝」「新年一致祈祷会」「8・15平和を求める合同祈祷会」の三つとする。** (「8・15平和を求める合同祈祷会」の性格については，この後審議し続けることとなる。)
	11月8日，財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金より，「レーナ・マリアコンサート」への後援依頼を受諾する。
1998年	2月2日，世話人2名より新年度からの世話人を辞退したい旨の申し出があり承認。NCCJへ5000円の献金を決定。新代表に日本福音ルーテル鶴ヶ谷教会牧師 杉山昭男を選出。
	10月5日，「8・15平和を求める合同祈祷会」の献金より，2万円を，インド核開発反対運動に奉げる。
	11月26日，次年度以降の代表として日本基督教団北三番丁教会牧師酒井薫を選出。
2002年	12月25日，2003年の「新年礼拝」休止を決定。
2003年	3月10日，代表を日本福音ルーテル鶴ヶ谷教会牧師三浦謙に交代。補佐に杉山師。
	4月13日，日本基督教団仙台ホサナ教会にて，「平和を求める祈祷集会」開催。

2003年	上記「平和を求める祈祷集会」での呼びかけから「仙台　平和を求めるキリスト者の会」が発足。5月11日･9月14日･11月16日に学習会を開催。
	10月27日，日本イエスキリスト教団と日本福音自由教会より，世話人辞退の申し出を受け，これを受理する。
2004年	3月9日，「8・15平和を求める合同祈祷会」のあり方について，従前の講演会形式を止め，礼拝と分団協議の二部構成とすることを決定。第一部に戦争体験者の証言を入れることにした。結果，155名出席（過去最多）。以後，同様の出席者となる。
	6月22日，世話人として，日本同盟基督教団仙台のぞみ教会牧師秋山善久と日本基督教団仙台青葉荘教会牧師島隆三が加わる。また，「8・15平和を求める合同祈祷会」のチラシ発送を日本YMCAに依頼することとした。
2007年	2月20日，新代表として日本キリスト改革派仙台教会牧師吉田隆を選任。補佐に日本バプテスト連盟仙台基督教会牧師山下誠也を選任。会計は引き続き斉藤潔とし，補佐として日本同盟基督教団牧師秋山善久が選任された。
	4月17日，「8・15平和を求める合同祈祷会」を若い世代の参加を促すことも意識して，礼拝形式にテゼ共同体の歌を採用（荒井偉作氏にリードを依頼）。また賛美のゲストに菅英三子・苫米地サトロさんを招くこととした。第二部はなし。
2008年	5月29日，「8・15平和を求める合同祈祷会」を再び二部構成にし，第一部を昨年同様テゼ形式の礼拝（ゲストに仙台白百合学園高校の合唱とプレイズステーション），第二部に本多立太郎氏による戦争体験談を依頼。以後，この二部形式（第一部：テゼ形式＋ゲスト，第二部：講演会など）が定着。
2009年	1月と8月の諸集会（礼拝と祈祷会）の他に，仙台圏の教会が共有する諸課題についての公開学習会を開催することを計画。9月5日に森一弘司教を招いて「日本における福音宣教の課題〜カトリック教会におけるNICEの意義と評価をめぐって」を開催。なお，それに先立ち準備学習会も開いた。
	前年に続き，公開学習会を10月2日に開催。テーマは「大切な人を亡くされた方への配慮〜仙台圏に仕える教会の役割」。全国自死遺族連絡会の田中幸子氏に講師して頂いた。

2010年	日本ナザレン教団仙台富沢教会牧師阿部頌栄が世話人に参加。日本基督教団仙台市民教会牧師川上直哉が日本基督教団東北教区宮城中地区役員として世話人会に参加。
2011年	3月11日，東日本大震災発生。世話人のラシャペル神父召天。15日の同神父通夜式に集まった世話人で，被災教会への対応を協議するために18日に再度集まることにした。18日，世話人のみならず集まった40名程の諸教会・諸団体代表者によって「仙台キリスト教連合被災支援ネットワーク（略称・東北ヘルプ）」を設立。